

論文内容の要約

| | |
|--|---|
| 論文名 | Clinical Impact of the Extent of Lymph Node Micrometastasis in Undifferentiated-type Early Gastric Cancer 未分化型早期胃癌におけるリンパ節内微小転移の広がり of 臨床的意義 |
| 氏名 | 李 友浩 |
| <p>【目的】 胃癌においてリンパ節転移は重要な予後因子であり、未分化型早期胃癌に対する術式は肝動脈周囲リンパ節を含む D1+リンパ節郭清が標準である。本研究は胃所属リンパ節内の微小転移の個数と広がりについて検討し、適正なリンパ節郭清の重要性を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【対象】 1997 年から 2010 年までに当科で根治的胃切除術を施行した未分化型早期胃癌 307 例を対象とした。</p> <p>【方法】 9525 個の所属リンパ節の代表一切片に対する抗サイトケラチン抗体を用いた免疫組織染色により、リンパ内微小転移を同定し、微小転移の分布および予後との関連を検討した。</p> <p>【結果】 微小転移は腫瘍径、深達度、リンパ節転移と関連した。微小転移の分布の検討では、3.9% (12 例) の症例に左胃動脈周囲および肝動脈周囲リンパ節まで広がりを認めた。微小転移をリンパ節転移として腫瘍進行度の再評価を行うと、10% (32 例) が stage migration 来し、有意に予後不良であった。</p> <p>【結論】 未分化型早期胃癌において微小転移は胃周囲リンパ節より遠隔のリンパ節内にも存在しており、未分化型早期胃癌に対する本邦での標準治療である D1+リンパ節郭清の重要性が示唆された。</p> | |